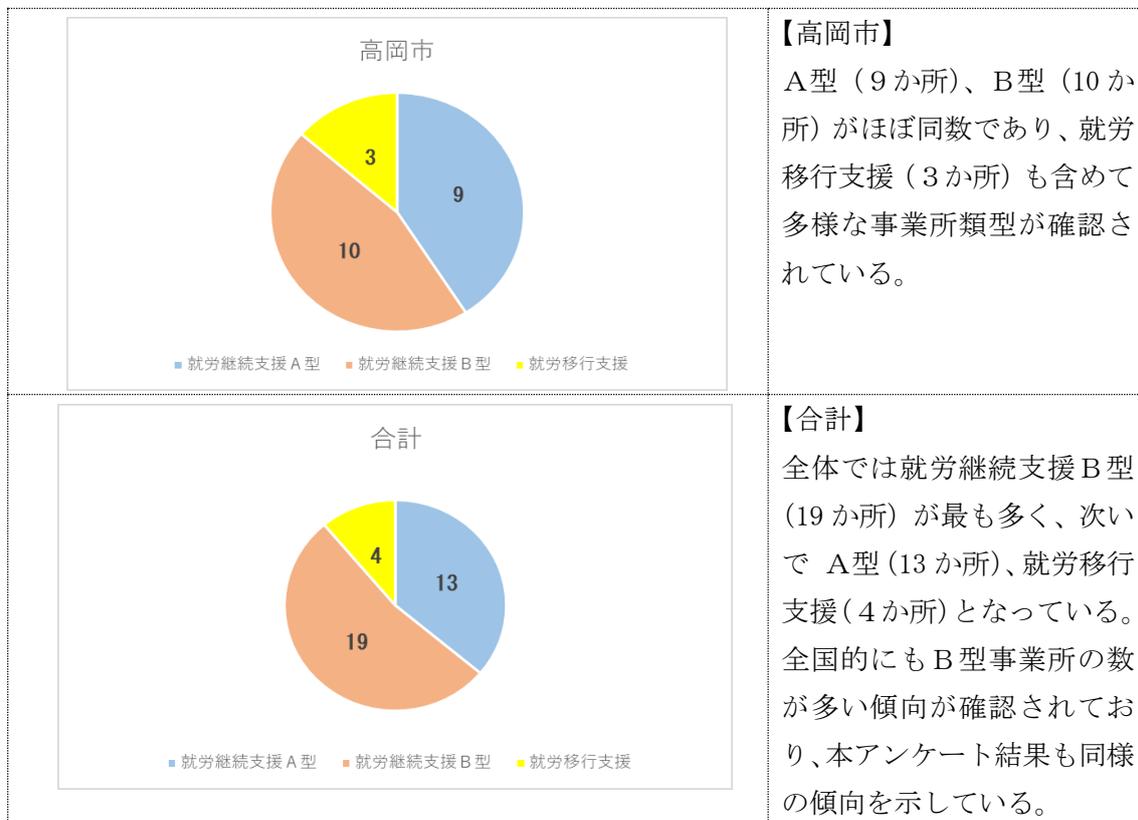
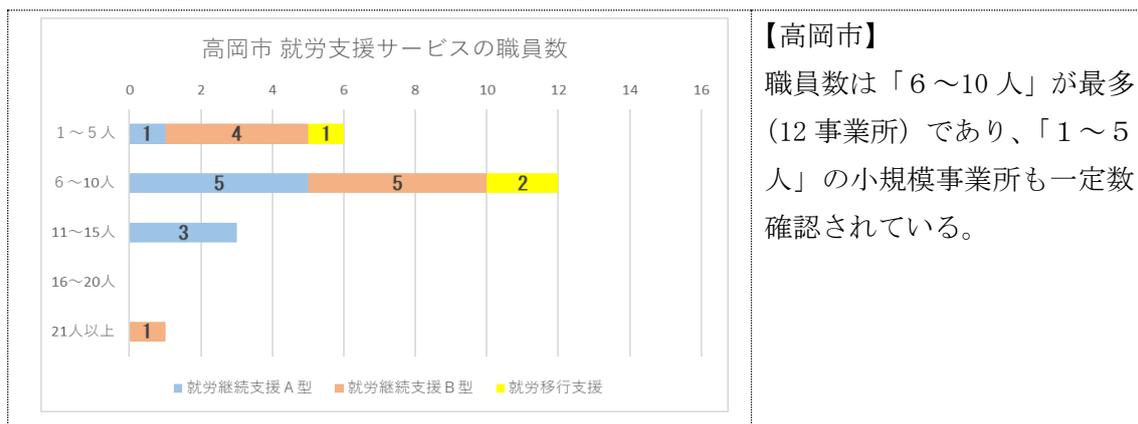


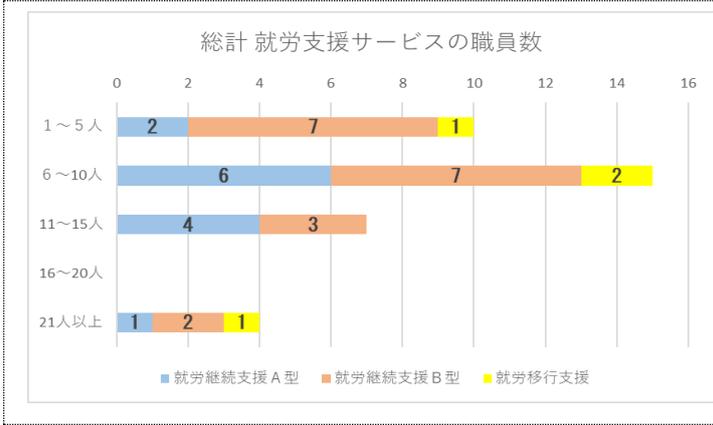
## 障がい者就労支援サービスに関する実態把握アンケート（集計結果）

### （１）事業所の所在地・類型 ※就労支援サービス事業所のみを集計



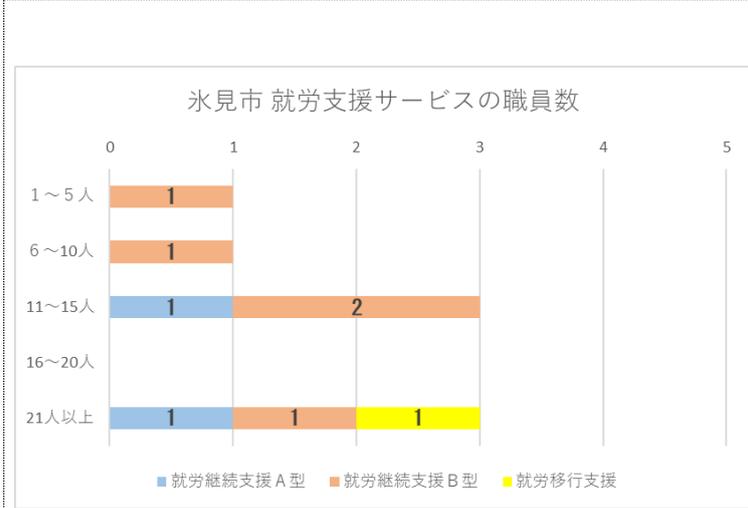
### （２）就労支援サービスの職員数 ※就労支援サービス事業所のみを集計



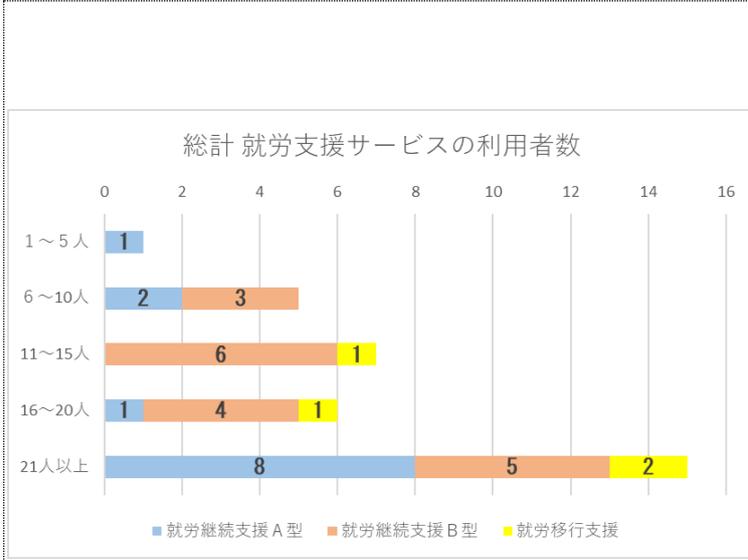


**【合計】**  
職員数は「6～10人」が最も多く16事業所、次いで「1～5人」が15事業所となっている。全体として、小規模から中規模の職員配置が中心となっている。

(3) 就労支援サービスの利用者数 ※就労支援サービス事業所のみを集計



**【高岡市】**  
利用者数は「21人以上」が最多の10事業所となっており、大規模利用者を抱える事業所が多い。職員数は中規模「6～10人」が多いが、利用者数は「21人以上」が中心である。結果として、1事業所当たりの職員数に比して利用者数が多く、支援密度が高い傾向が見られる。



**【合計】**  
利用者数は「21人以上」が16事業所と最も多く、次いで「11～15人」「16～20人」がそれぞれ8事業所となっている。利用者数は職員数に比べて規模が大きい事業所が目立つ。職員数は「6～10人」規模が多い一方、利用者数は「21人以上」の規模が多い。これは「少人数の職員で多数の利用者を支援している事業所が

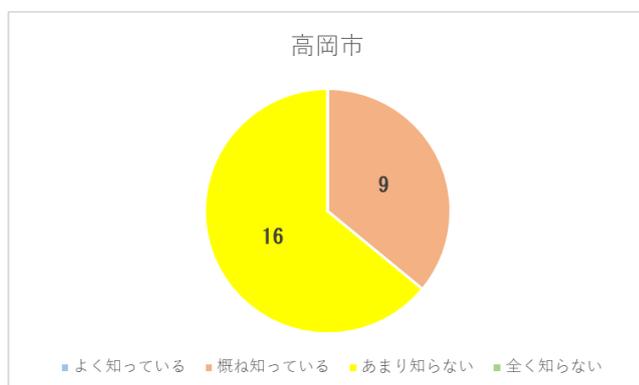
多い傾向を示している。

#### (4) 事業運営上の課題（複数選択可）



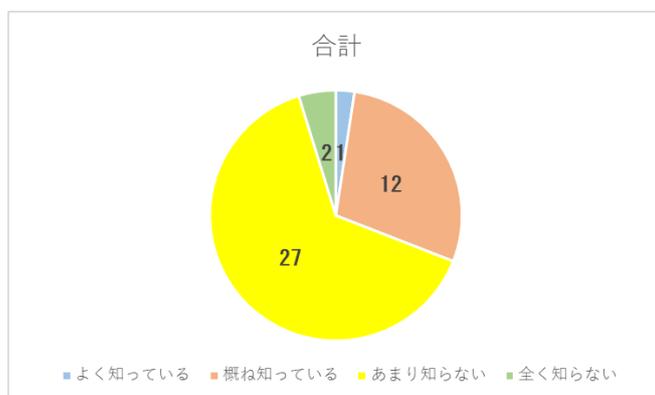
である。「生産活動や受注先の確保が難しい」は11件、「利用者の通所や継続支援が困難」と「就労移行への支援が困難」は7件、「関係機関との連携が不十分」は6件であり、利用者支援や関係機関連携に関する課題も一定数確認されている。総じて、3市全体に共通する基盤的課題は工賃水準の確保、人材確保、経営面での困難であり、これらを優先的に解決することが事業運営の安定に直結すると考えられる。

(5) 「就労選択支援」(令和7年10月開始予定)の認知度



【高岡市】

「概ね知っている」が9件、「あまり知らない」が16件である。「よく知っている」と「全く知らない」は0件である。認知度は低く、制度を十分に把握している回答はごく少数にとどまっている。



【合計】

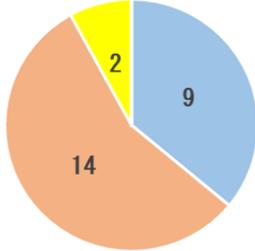
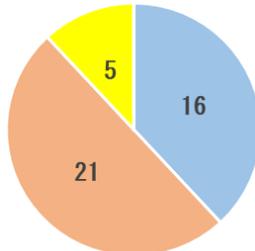
3市全体では、「よく知っている」が1件、「概ね知っている」が12件、「あまり知らない」が27件であり、「全く知らない」は0件である。全体として「知らない」に分類される回答が多数を占めており、制度に関する周知や説明が十分に行き届いていない状況である。

(6) 現場で感じている困りごと (複数回答可)

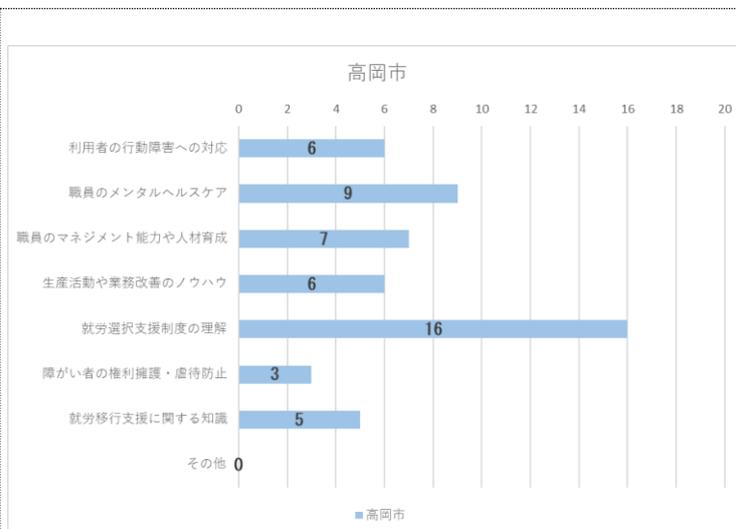
<p>高岡市</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>困りごと</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の確保や定着が難しい</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>利用者支援に必要な知識や技術が不足している</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>工賃の確保や生産活動の継続に不安がある</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>制度改正や新制度への対応に時間が割けない</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>関係機関との情報共有や連携が不十分</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>相談できる場や事業所間のつながりが少ない</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	困りごと	件数	職員の確保や定着が難しい	6	利用者支援に必要な知識や技術が不足している	11	工賃の確保や生産活動の継続に不安がある	12	制度改正や新制度への対応に時間が割けない	9	関係機関との情報共有や連携が不十分	3	利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)	9	相談できる場や事業所間のつながりが少ない	5	特にない	0	その他	1	<p><b>【高岡市】</b></p> <p>「工賃の確保や生産活動の継続に不安がある」が12件で最も多い結果となっている。次いで「利用者支援に必要な知識や技術が不足している」が11件であり、支援力の不足が課題として浮かび上がっている。「制度改正や新制度への対応に時間が割けない」と「利用者の生活支援(移動、健康、金銭管理等)が難しい」がそれぞれ9件であり、制度対応と生活支援の双方に困難が生じている。「職員の確保や定着が難しい」が6件あり、人材確保の課題も無視できない状況である。</p>
困りごと	件数																				
職員の確保や定着が難しい	6																				
利用者支援に必要な知識や技術が不足している	11																				
工賃の確保や生産活動の継続に不安がある	12																				
制度改正や新制度への対応に時間が割けない	9																				
関係機関との情報共有や連携が不十分	3																				
利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)	9																				
相談できる場や事業所間のつながりが少ない	5																				
特にない	0																				
その他	1																				
<p>合計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>困りごと</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の確保や定着が難しい</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>利用者支援に必要な知識や技術が不足している</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>工賃の確保や生産活動の継続に不安がある</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>制度改正や新制度への対応に時間が割けない</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>関係機関との情報共有や連携が不十分</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>相談できる場や事業所間のつながりが少ない</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	困りごと	件数	職員の確保や定着が難しい	13	利用者支援に必要な知識や技術が不足している	20	工賃の確保や生産活動の継続に不安がある	20	制度改正や新制度への対応に時間が割けない	15	関係機関との情報共有や連携が不十分	7	利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)	12	相談できる場や事業所間のつながりが少ない	9	特にない	1	その他	2	<p><b>【合計】</b></p> <p>3市全体では、「利用者支援に必要な知識や技術が不足している」と「工賃の確保や生産活動の継続に不安がある」がそれぞれ20件で最も多い結果となっている。次いで「制度改正や新制度への対応に時間が割けない」が15件、「職員の確保や定着が難しい」が13件である。「利用者の生活支援(移動、健康、金銭管理等)が難しい」が12件、「相談できる場や事業所間のつながりが少ない」が9件、「関係機関との情報共有や連携が不十分」が7件であ</p>
困りごと	件数																				
職員の確保や定着が難しい	13																				
利用者支援に必要な知識や技術が不足している	20																				
工賃の確保や生産活動の継続に不安がある	20																				
制度改正や新制度への対応に時間が割けない	15																				
関係機関との情報共有や連携が不十分	7																				
利用者の生活支援 (移動、健康、金銭管理等が難しい)	12																				
相談できる場や事業所間のつながりが少ない	9																				
特にない	1																				
その他	2																				

	<p>る。全体として、現場の困りごとは支援技術の不足、工賃や生産活動に関する不安、制度改正対応の3点に集中している状況である。</p>
--	---------------------------------------------------------------------

(7) 関係機関との連携状況

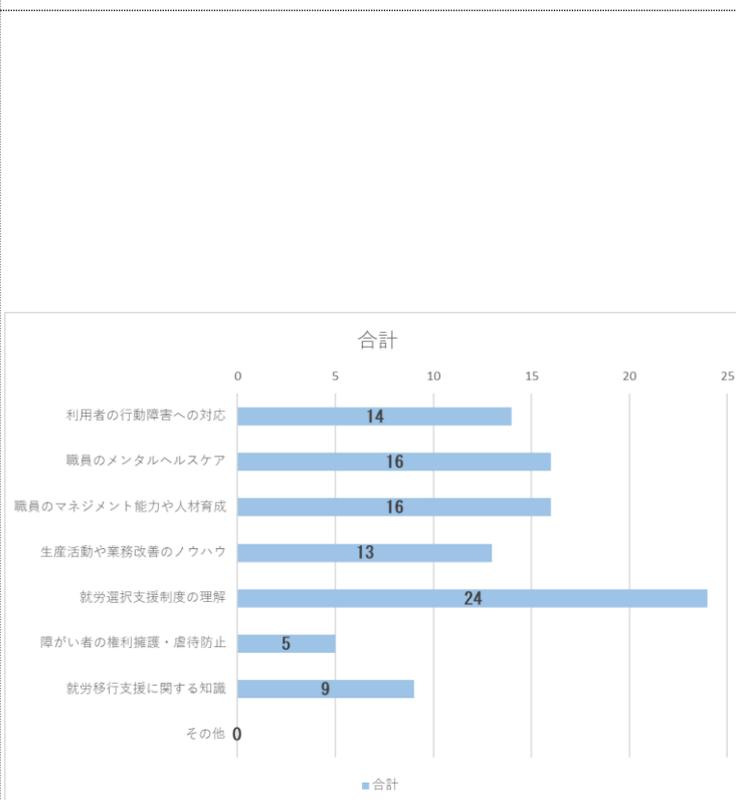
<p style="text-align: center;">高岡市</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>■ 良好に連携できている</td> <td>■ 一部連携できているが課題がある</td> </tr> <tr> <td>■ ほとんど連携できていない</td> <td>■ 該当なし</td> </tr> </table>	■ 良好に連携できている	■ 一部連携できているが課題がある	■ ほとんど連携できていない	■ 該当なし	<p><b>【高岡市】</b></p> <p>「良好に連携できている」が9件、「一部連携できているが課題がある」が14件、「ほとんど連携できていない」が2件、「該当なし」は0件である。大半は連携できているものの、その中で課題を抱えている事業所が多数を占めており、連携の質や安定性に改善余地がある状況である。</p>
■ 良好に連携できている	■ 一部連携できているが課題がある				
■ ほとんど連携できていない	■ 該当なし				
<p style="text-align: center;">合計</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>■ 良好に連携できている</td> <td>■ 一部連携できているが課題がある</td> </tr> <tr> <td>■ ほとんど連携できていない</td> <td>■ 該当なし</td> </tr> </table>	■ 良好に連携できている	■ 一部連携できているが課題がある	■ ほとんど連携できていない	■ 該当なし	<p><b>【合計】</b></p> <p>3市全体では、「良好に連携できている」が16件、「一部連携できているが課題がある」が21件、「ほとんど連携できていない」が5件、「該当なし」は0件である。連携自体は多くの事業所で実施されているものの、その過程で課題を抱えているケースが最も多く、安定的な連携体制を構築する必要性が示されている。</p>
■ 良好に連携できている	■ 一部連携できているが課題がある				
■ ほとんど連携できていない	■ 該当なし				

(8) 研修を希望するテーマ (複数回答可)



【高岡市】

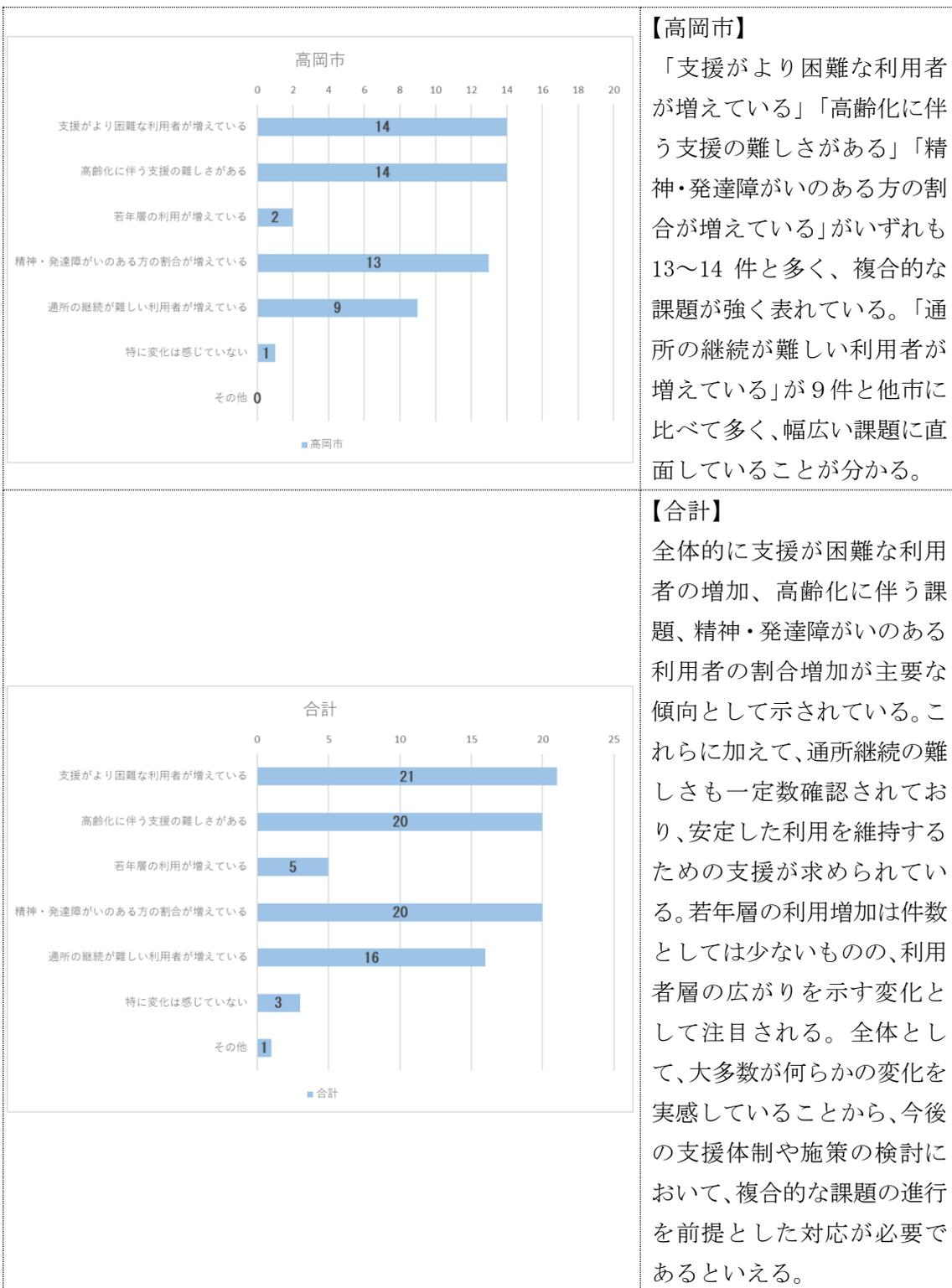
「就労選択支援制度の理解」が16件と突出して多く、制度に関する理解を深めたいという傾向が強く表れている。次いで「職員のメンタルヘルスケア」が9件、「マネジメント能力や人材育成」が7件と続き、職員の支援や組織体制の強化を意識した結果となっている。



【合計】

「就労選択支援制度の理解」が24件と最も多く、全体として制度理解への強い研修ニーズが示されている。次いで「職員のメンタルヘルスケア」と「職員のマネジメント能力や人材育成」がいずれも16件となっており、現場での人材確保や定着に向けて職員のケアや組織運営に関する研修を求める傾向が明らかである。「利用者の行動障害への対応」は14件、「生産活動や業務改善のノウハウ」は13件であり、現場の実践的課題に関する研修需要も確認できる。これに対し、「就労移行支援に関する知識」は9件、「障がい者の権利擁護・虐待防止」は5件と比較的少ない傾向となっている。

(9) 最近の利用者の傾向・変化（自由記述あり）



【高岡市】

「支援がより困難な利用者が増えている」「高齢化に伴う支援の難しさがある」「精神・発達障がいのある方の割合が増えている」がいずれも13～14件と多く、複合的な課題が強く表れている。「通所の継続が難しい利用者が増えている」が9件と他市に比べて多く、幅広い課題に直面していることが分かる。

【合計】

全体的に支援が困難な利用者の増加、高齢化に伴う課題、精神・発達障がいのある利用者の割合増加が主要な傾向として示されている。これらに加えて、通所継続の難しさも一定数確認されており、安定した利用を維持するための支援が求められている。若年層の利用増加は件数としては少ないものの、利用者層の広がりを示す変化として注目される。全体として、大多数が何らかの変化を実感していることから、今後の支援体制や施策の検討において、複合的な課題の進行を前提とした対応が必要であるといえる。

【自由記述】

「A型縮小に伴いB型から一般就労を希望する利用者があるが、課題が多く移行が難しい状況がある」や「利用者と家族双方の高齢化により、生活支援や金銭管理が難しくなっている」、また、「生活様式や意識の多様化により、支援が複雑化している。作業能力が低い利用者も増え、運営面での負担が増している」といった意見があった。このことから、就労移行の困難さ、高齢化に伴う生活支援の課題、生活様式や意識の多様化による支援の複雑化が主な傾向として確認できる。これらが重なり、現場の支援はより難しさを増していると言える。

(10) 今後、行政や関係機関に期待すること・提案（自由記述）

【自由記述】

1. 行政との連携不足への指摘

福祉課からの対応が一方的であり、利用者視点が欠けているとの意見がある。ケース会議を開かずに決定が下されることに対する不満が示されており、行政と現場の連携強化が求められている。

2. 農福連携・地域活動への期待

農福連携やマルシェといった活動を強化してほしいとの意見があり、参加費の免除など具体的な支援策を望む声がある。地域資源を活かした取り組みに対する期待が大きいと考えられる。

3. 就労選択支援に伴う情報提供の充実

新制度の導入により、中立的な立場から利用者へ事業者情報を伝える必要性が高まる中、事業者の特徴やサービス内容を知る機会を行政が設けることを望む意見がある。

4. 数値偏重への疑問

工賃や就労人数といった数値ばかりが求められる現状に対し、それが福祉の本質といえるのか疑問を呈する意見がある。福祉の質的側面を重視すべきという提案である。

自由記述からは、行政に対しては「一方的ではなく連携を重視する姿勢」への期待、関係機関に対しては「地域資源の活用や情報共有の仕組みづくり」への要望が明らかになっている。また、成果を数値で評価する手法に偏らず、福祉の本質に沿った支援の質を重視する方向性を求められている。